

式辞

春の風を、ほんのりと両手に感じる今日のよき日、卒業式を迎えた明星高等学校、本科三六八名の生徒の皆さん、卒業おめでとう。

皆さんはこの二年間、新型コロナウイルス感染症が、全世界に蔓延する中で、不便で窮屈な日々を過ごし、分散登校やリモート授業などの、それまで経験したことがない生活を強いられ、不安や焦り、また、やり場のない葛藤をかかえながら過ごしてきたのではないだろうか。しかし、この二年間、右往左往しながらも、夢や希望を失わず、自己の本分に務め、将来への道を切り開く努力を続けて今日の卒業式を迎えることが出来ました。

皆さんは、明星の誇りであり宝です。よくこころで頑張ったと、自分を褒め、自信を持って巣立つて行つて下さい。そして、これまで皆さん方の成長に、全力を注いでくれた先生方に、感謝の気持ちを忘れず、卒業後も、折に触れ学校や先生方を尋ねてくれることを、切に願います。

さて、高等学校までの教育は、社会人教育などとは異なり、青少年に対する教育であり、青少年が大人の社会に参入するのを、円滑にするという役割を持っています。このことは、大人の社会がどういう社会であるかに応じて、その教育内容が決まることを意味します。

二十一世紀も五分の一を過ぎ、新型コロナウイルスの影響もあつて、社会は加速度的に変化しています。社会のグローバル化は既に当たり前となり、高度情報化は「AI」の急速な発達により、さらなる社会変容をもたらしています。このような社会において、現在の巨大な潮流であるDXやGX、そしてSDGsを実現できる人材が求められていると言えます。この意味では、皆さん方が受けてきた明星教育は、二十一世紀での活躍力を身につける、大きなヒントになったはずです。

そして、これから進む進路においても、社会人になってからも、日本及び世界の情勢に敏感になり、世界に貢献する人になってください。新型コロナウイルス感染症の終息へと、世界の英知と力を注がなければならぬ今、ロシア軍によるウクライナ侵攻が始まり、世界が緊迫する中、日本も大きな影響を受けることに興味・関心を持つことが、建学の精神を具現化する、第一歩です。

次に、大人の世界に入るといふ観点では、今年四月の改正民法施行で成人年齢が、十八歳に引き下げられ、皆さんは成人となります。従来の二十歳までとは異なり、親の同意がなくても可能になることが増え、選挙に行くこともそうですが、大人として振る舞うことが求められます。権利を主張するなら義務が伴い、自由を求めるなら責任を果たさなければなりません。大人として生きていく皆さん方は「権利と義務」、「自由と責任」が表裏一体の関係にあるといふことを覚えておいて下さい。そして、何事に対しても前向きに考え、至誠を持って実行することを忘れずに下さい。

正門脇に、創立者児玉九十先生の体験主義に共鳴した、神戸の実業家から贈られた二宮尊徳の銅像があります。以下は尊徳の言葉です。「我が道は至誠と実行のみ。故に才智、弁舌を尊ばず。至誠と実行を尊ぶなり。凡そ世の中は智あるも、学あるも、至誠と実行とにあらざれば、事は成らぬものと知るべし。」 尊徳のこの言葉は明星教育の本質であります。校訓「健康・真面目・努力」のもと、日々勉学や部活動に励み、体育祭や明星祭に情熱を燃やし、研修旅行や校外学習を体験し、凝念や心力歌で心の成長に努めた、皆さんだからこそ、よく理解できる言葉だと思えます。

最後になりましたが、卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうございます。またこれまで明星の教育活動にご理解ご協力いただき誠に有難うございました。さらには卒業記念品としてウオータデイスペンサーを贈呈いただき高い席からではございますがお礼申し上げます。

それでは、卒業生の皆さん、これまで出会った多くの人々を敬い、これから出会う更に多くの人々を尊び、自分の新しい生き方を見つけて下さい。皆さんの将来の、限りない可能性を期待して卒業式式辞と致します。卒業おめでとう。

令和四年三月一日 明星高等学校長 福本眞也